

## 発刊にあたって

---

プロジェクト顧問 木立 英行 (大阪教育大学理事)

教員は、教科の指導にあたるためには、自信の持てる指導方法を見いださなければなりません。そのためには長い実践経験と深い考察との両方が必要になります。ことに、実技を伴う教科の指導力を養うには、まず、自分にあった指導法、指導者に恵まれる必要があります。しかし、忙しい教職にある身では、そのような機会を得ることは容易ではありません。

このような事情を考え、音楽教育に関心のある方々のお役に立つことができればと、平成 21 年 5 月に DVD 版の『音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】わらべうた編&コーラス編』Vol. 1 を発刊しました。幸いにも各方面から感想、ご意見、実践報告など寄せていただくことができ、制作に携わったもの一同、感謝致しております。

さて、この度、先の経験に自信を得て Vol. 2 を発刊することになりました。お寄せ頂いた皆様のご意見は、多いに参考にさせて頂きました。前編同様、現職の先生や関心のある方々に役立てていただきたく思っております。

皆様のご批判や提案、ご要望をいただき、より良いものにし、また、今後『器楽アンサンブル、創作』等についても刊行するつもりですが、皆様のご協力を得て、このような活動によって、時代にあった音楽指導方法を作り上げることに、大阪教育大学音楽教育講座が貢献することができればと、念願致しております。

## 教材をデジタル化する意味

---

プロジェクトスーパーバイザー 田中 龍三 (大阪教育大学教授)

このデジタル教材は、本学の「次世代を育てる全領域デジタル教材の展開」プロジェクトの一環として制作された教材の Vol. 2 です。

教材をデジタル化する目的はいろいろあります。Vol. 2 でも、音楽活動の基礎的な能力となる知覚・感受を学習活動の中心に据え、それに基づく音楽表現の技能を育てることを目的としています。そして、その目的を実現するための指導に工夫を加えることをイメージしてデジタル化を図りました。

デジタル教材の特性としては、教材を瞬時にピンポイントでストレスを感じさせることなく提示することや、授業スタイルに即して加工しやすいことなどが上げられます。

つまり、このデジタル教材をそのまま使うことも、子どもが音楽の仕組みを理解し、音楽表現のおもしろさを体感するという新しい授業が展開できますが、先生方が新たな授業を創造される際に、このデジタル教材を目的に応じて加工して使われることも、是非試みていただきたいと願っております。

本学音楽教育講座では、今後も地域の先生方と連携をしながら、音楽科授業の改善をめざし、さまざまなデジタル教材の開発を進めていきたいと考えております。それらが学校現場のニーズに応えられるものとなるためにも、このデジタル教材 Vol. 2 を実際に授業で使っていただき、忌憚のないご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。

## 合唱の歴史をたどって

藤井 修（作曲家）

合唱の歴史では、同じメロディーをユニゾン（斉唱）で歌い、遊びや労働、祈り等を行うようになった後に、掛け合いや合いの手を入れる形式に発展したと考えられています。そして同じメロディーをずらして歌うカノン（輪唱）や、多くの声部が異なるメロディーを歌いながら、一つの楽曲を構成するポリフォニー（多声音楽）が成立します。その後、永い年月を経て、一つのメロディーに和音をつけて歌うホモフォニー（和声的音楽）に発展します。

このデジタル教材は、合唱が発展してきた歴史をたどるように指導を進めることにより、無理なく自然に合唱の能力を高めることができる、という考え方に基いて構成されています。これを一つの提案として、様々なレベルでの合唱指導に役立ててください。そしてご意見、ご感想をお寄せ頂ければ、更に新たな研究開発の参考にさせていただきます。

### Vol. 2 から学ぶもの

澤田 篤子（洗足学園音楽大学教授）

「わらべうた」などの日本の音楽や「カノン」の手法、そして平行 5 度による歌唱などを用いた本教材は学校音楽教育にいろいろな示唆を与えます。

今日、わらべうたを歌う機会は確かに少なくなっていますが、それでもなお、子どもたちはわらべうたで遊んでいます。わらべうたは遊びの中で、子ども自身のもっとも歌いやすい音域と発声で歌われ、まさに日本人の歌の原点といえましょう。教育の場では、生活におけるわらべうたの有り様そのままを学ぶのみならず、さらに生活から切り離してわらべうたと向き合うことが求められます。それは単に合唱曲に編曲したものや、ピアノ伴奏を付けたものを歌うことではなく、その根本に日本人が培ってきた音楽の営みの手立てを据えることではないでしょうか。

本教材では「カノン」や別のわらべうたを合わせて歌うという方法を用いていますが、これらは日本の伝統的な音楽にも見られる手法です。たとえば雅楽には追吹（おいぶき）という、1 小節ずつ遅れて演奏する方法があり、また地歌では異なる曲と合奏する「打合せ」という方法も伝えられています。いずれも音楽をもっと複雑にして楽しみたいという日本人の欲求から生まれたもので、本教材でのわらべうたの展開と共通しています。

さらに西洋音楽について、完全 5 度や完全 4 度といういわゆる協和音程を「声を合わせる」ことの基盤に置いています。この音程は古代に中国から日本に伝わった音律法にも通じ、楽器の調弦にも用いられるなど、民族を超え誰にでも備わっている音程感覚です。

日本人がより複雑な響きを生み出し、また西洋人が和声音楽を生み出してきた過程の追体験や、普遍的な音程感覚の習得は、合唱活動を音楽の豊かな学びへと広げていくことでしょう。

また、本教材は「合唱指導」用とのことですが、そのアイディアは新学習指導要領の改善点の一つ「音楽づくり」や「創作」にも敷衍することができるのではないのでしょうか。歌って合うわらべうたを見つかったり、いろいろな方法でカノンにして楽しんだり、また本教材の趣旨からは離れますが、替え歌を作ったりなど、子ども自身でさまざまな工夫できます。

本教材が先生方の洞察と工夫、そして子どもたちの発想によって、さまざまに活用されることを祈念いたします。

## 教材開発の視点

---

プロジェクト代表 寺尾 正 (大阪教育大学教授)

デジタル教材開発にあたって、二つのことを意識しました。一つは、授業を受ける子どもたちがこの教材を楽しんで学べるかです。ここに含まれる教材（共通教材である『もみじ』を除く）はすべてシンプルで、区切られた短いステップを2、3度繰り返し歌えば覚えられるものばかりです。しかも、注意深く取り組みながら、ステップを重ねて練習することにより、子どもたちは小さな驚きを感じられるように工夫されています。カノンであれば、パートをずらし歌うことで、動きの中に作り出される音程により様々な響きが現れます。また、オルガナムでは完全4度、5度音程を平行に動かすことで、連続した不思議な響きに包まれます。いずれも課題をステップアップさせるごとに子どもが、歌い合う面白さと共に無理なく音程感覚を身につけることができる優れた方法です。

いま一つは、教える側、つまり扱っていただく先生方の授業展開にも配慮している点です。子どもたちに無理がない教材ということは、教える側にも「やさしい」教材と言えます。伴奏に気を取られることなく、対面して歌っている子どもたちの声を集中して聴くことが可能です。もちろん範唱、音程を聞き分ける能力など、教師が必要とするスキルについての訓練は必要ですが、講習などで容易に習得できます。ぜひ、現場の先生自らが試演し、その楽しさ、有効性を実感していただくことをお勧めします。研究グループ等を募って教材研究をさらに深めていただくことなどあれば、望外の喜びです。

特記事項として、本コンテンツの仕事の多くは、大学院生の手によるものであることを挙げておきます。嬉々として仕事を進める彼らを見るにつけ、皆で考え、アイデアを出し合う創造的な教育環境がいかに大切かを痛感いたしました。

最後になりましたが、このプロジェクトにご協力いただいた箕面市立箕面小学校、学校法人嶋田学園鶴山台国際幼稚園、大阪教育大学附属平野小学校の皆様にご心より感謝いたします。現場の先生方の協力のおかげで、子どものリアルな反応や様子を映像におさめることが実現し、本教材を一段と魅力あるものにできたと感じます。また、その他にも多くの方々から教材をよりよくするためのご助言をいただきました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

## Concept

---

「乱暴に歌う子どもに、どうやってアドバイスしたらいいかわからない・・・」  
「発声は工夫しているけど、どうやって曲につなげればいいんだろう・・・？」  
「もうワンステップ、子どもたちのコーラスをいいものにしたい！」

この音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】は、そのような壁にぶつかったときに、ひとつのアドバイスとなることを目的とした教材です。音楽の専門教育を受けていなくても、ピアノが上手でなくても、子どもの歌唱の基礎力を高めることができます。また Vol.2 では Vol.1 から積み重ねてきた基礎力をベースに、さらにステップアップしていく教材も用意しました。

コーラスにおいては、「歌うこと」と同時に、「聴き合うこと」がとても大切です。本コンテンツでは、この「聴き合う力」を高めるために《わらべうた編》と《コーラス編》の2編にわけて、教材をステップアップさせていきます。《わらべうた編》では、遊びとして歌われるわらべうたをカノンの教材として用います。遊びをとおして仲間とともに歌いあうことで、自然に、無理なく合唱のためのスキル、「聴き合う力」を身につけることができます。《コーラス編》では、「聴き合う力」をベースに、カノンを発展させ、ハーモニーを作るトレーニングを取りいれました。この《わらべうた編》と《コーラス編》はともに関連しており、両編を継続的に行うことでコーラスの基礎技能が培われると考えています。Vol.2 ではその例として、小学校の共通教材である「さくらさくら」と「もみじ」を取り上げ、どのようにステップアップさせていくかを提案します。

本コンテンツは Vol.1 の続編として制作し、Vol.2 で扱う教材は Vol.1 で養った基礎力をベースに考えられています。Vol.2 からご使用いただくのは可能ですが、Vol.1 との併用をおすすめします。Vol.1 は下記の URL（大阪教育大学音楽教育講座ホームページ）より配信しておりますので、ぜひご覧ください。また、Vol.1 の DVD 版を必要とされる方はご連絡下さい。

なお、ご希望に応じて、本デジタルコンテンツを使用して頂ける先生方を対象に、公開講座を行う予定です。お気軽にご相談ください。

その他、本コンテンツに対してのご意見・ご感想・ご質問などございましたら、お名前、所属、Email アドレスを添えて、下記のメールアドレス宛ご送信下さい。

Mail : [musicdc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:musicdc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)  
URL : [www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ongaku](http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ongaku)  
住所 : 〒582-8582  
大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1  
電話 : 072-971-3711

大阪教育大学 音楽教育講座  
寺尾 正